

外航クルーズ船誘客事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）					部局名	観光文化スポーツ部		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ5 世界に誇る山形の魅力を発信し国内外の旺盛な活力を引き込む「観光立県山形」の確立						
	施策	施策4 インバウンドの推進による交流人口の拡大						
	目的	仙台空港の民営化や外航クルーズ船の誘致、東京オリンピック・パラリンピックなどによる外国人旅行者の増加を好機ととらえ、急速な成長を遂げるアジアをはじめとする世界の観光需要を地域の隅々まで取り込み、地域の活力を高めていく。						
	目標指標(R2)	外国人旅行者の観光消費額	150億円					
	策定時の実績	28億円(H27年)	現状	28億円(H27年)	主要事業	戦略的な誘客推進		
事業名	外航クルーズ船誘客事業費			担当課・担当	インバウンド・国際交流推進課 インバウンド担当			
事業開始年度	平成28年度			事業終了(予定)年度	令和2年度			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	本県においては、平成29年度に初の外航クルーズ船「コスタ ネオロマンチカ」が寄港しているが、今後においても継続寄港の実現及び新たな外航クルーズ船の寄港拡大を目指し、酒田港への誘致を促進する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本海側の港と連携して外国船社の幹部職員を招請し、本県の観光資源を視察していただくことにより、クルーズ船寄港地としての酒田港の魅力をアピールし、誘致を図る。また、アジアにおけるクルーズ船社の拠点となる上海において、コスタ・クルーズやロイヤル・カリビアン・インターナショナルなど、日本への寄港実績を持つ船社を訪問し、本県のPRを行う。 ・観光・文化・食など本県が有する多様な観光資源を活かした歓迎イベントを通じた地域資源活用マーケティングを行う。 							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：歓迎行事において県産品を出品するため、民間事業者へ委託する。また、山形県及び酒田市を中心としたプロスポーツさかた ポートセールス協議会を推進母体としているため。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	外航クルーズ船誘致推進事業	4,400	1,500					
	元気な酒田港外航クルーズおもてなしスタイル構築事業		13,600					
	計	4,400	15,100	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	2,060	7,100					
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	2,340	8,000					
	計	4,400	15,100	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	プロモーション回数 (現地船社訪問、商談会、幹部招請)	活動実績	件	10	27			
		当初見込み	件	10	10	10	10	10
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	29年	30年	31年	32年	33年
	外国人旅行者受入数	成果実績	人	190,639	248,929			
		目標値	人	180,000	220,000	260,000	300,000	
		達成度	%	106%	113%			
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

政府は2020年までに訪日外国人旅行者数を500万人とする目標を掲げている。東北地域では、東北クルーズ振興連絡会議(平成29年3月28日設立 顧問:東北6県知事等)において、2020年までに延べ500寄港、乗船客数を延べ50万人の目標値を掲げている
本県においては、平成29年度に初の外航クルーズ船「コスタ ネオロマンチカ」が寄港しているが、今後においても継続寄港の実現及び新たな外航クルーズ船の寄港拡大を目指し、酒田港への誘致を促進する。事業は“プロスパーポートさかた”ポートセールス協議会を推進母体として実施する。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	外航クルーズ船誘致は、政府は2020年までに訪日外国人旅行者数を500万人とする目標に合致するものであり、酒田港の管理者である県が実施すべき事業である。本事業によって、本県の外国人観光客の受入者数も平成30年度過去最高を記録。また平成31年度の寄港予定数も増加し、着実に海外誘客の拡大が進んでいる。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	負担金及び委託経費については、業務実施に必要不可欠な費用に限定している。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	
の役割 妥当 分担 性担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	
今 改 善 の 点 等 課 題	船社が催行するオプションツアーは、庄内地域のみならず内陸への周遊も見据えより多くのツアーが催行されるよう船社等への働きかけを強化する。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- : 該当しない